



## ぐ たいてき ないよう プランの具体的な内容



# 1. プランに込めた基本的な考え方

みんな「こまき市民」、  
助けあって笑顔で暮らせるまち



このスローガンは、こまき市民の代表者が何度も話し合いをしてつくりました。  
まず私たちは「多文化共生とは、外国人市民が日本国籍を取得することや、外国人市民  
が家庭内で使う言葉（母語）や文化（母文化）を失って日本人になることとは違う」と考  
えました。そして「外国人市民を“お客様”にしないプランをつくりたい」と考えるよう  
になりました。

こうした話し合いを進めるなかで、次のことをもとにプランをつくっていくこととしまし  
た。

私たち「こまき市民」は、お互いに

1. 自ら進んで地域社会へ参加します（地域社会への参加促進）
2. 差別することなく人権を尊重します（個人の尊厳と基本的人権の尊重）

「多文化共生のまち」をめざすためには、毎日の生活のなかで、国籍・民族・文化・言葉  
のちがいなどを認め合い、お互いが思いやり支えあう心を育てていくことが大切です。こう  
した心を育てていくことが、こまき市民のだれもが自立し、地域社会へ参加する輪を広げ、  
みんなが笑顔で暮らせるまちをつくっていくと考えます。



# 2. 市民一人ひとりができることからはじめよう

“みんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまち”を実現するためには、  
市民一人ひとりが、お互いを支えあい協力しながら、身近にできることを、一つ  
ひとつしていくことが大切です。課題はたくさんありますが、特にこまき市民  
にとって大切なことを、まずは5つ取り上げ、それらを“めざすこと”としました。

そして、この5つの“めざすこと”的ななかで、こまき市民のだれもが自らできることを、  
市民、企業、行政それぞれの立場から考え、それらを“挑戦すること”としました。

なお、“挑戦すること”については、こまき市民が多文化共生を具体的に推進していくため、  
“実行する人”も明らかにし、基本的でわかりやすい内容にしました。

こうしてまとめたものが、次のページの体系図になります。  
この5年間で基本的な内容を実践することによって、課題を解決しながら、市民一人ひと  
りの交流の輪を広げていき、多文化共生の土台をつくっていきます。



### 3. プランの体系図

「できることからはじめよう」編 (2011～2015年度)

第1章

スローガン  
みんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまち

私たち「こまき市民」は、お互いに

自ら進んで  
地域社会へ参加します  
(地域社会への参加促進)

差別することなく  
人権を尊重します  
(個人の尊厳と基本的人権の尊重)

めざすこと  
(基本目標)

めざすこと①  
ひとりひとりの  
防災対策が  
100点のまち  
にします

めざすこと②  
自治会の活動  
への参加を増  
やします

めざすこと③  
正しいごみの  
出し方を知り、  
ごみの減量を  
めざします

めざすこと④  
子どもたちの  
「多文化共生」  
を応援します

めざすこと⑤  
国籍・民族・  
文化・言葉など  
お互いの  
「ちがい」を学  
びます

挑戦すること

挑戦すること

挑戦すること

挑戦すること

挑戦すること

7～8ページ

10～11ページ

13～14ページ

16～17ページ

19～21ページ



できることからはじめます



## 4. こまき市民一人ひとりが行動します

めざすこと  
一人ひとりの防災対策が  
100点のまちにします

### (1) こまきの現状

市では、2006年度にポルトガル語・スペイン語・英語・中国語の4言語で生活ガイドブックをつくり、そのなかで、地震・火事・大雨などについて説明しています。

また、市が防災訓練や消火訓練、地震体験などを行う時には、国際交流協会（KIA）と協力しながら外国人市民へ参加を呼びかけています。しかしながら、災害の時における外国人市民の支援体制は確立されていません。

### (2) こまきの課題

こまき調査から、地震・火事・大雨などの時に「どこに連絡していいかわからない」「逃げる場所（避難場所）を知らない」方や、言葉がわからぬために「救急車や消防車を呼べない」「警察に通報できない」方がいることがわかりました。

特に、地震がない国から日本に来た外国人市民にとっては、経験がないために何をしたらよいかわかりません。日本語がわかる外国人市民にとっても、地震・火事・大雨などが起きたときはとても不安なものです。

### (3) めざすことを考えた理由

防災対策は、人の命にかかる大切なことであり、その中でも日頃から地域の住民同士が顔見知りであることが重要なポイントであると考えました。

# かだい かいけつ 課題の解決にむけて、挑戦すること

めざすこと①



じっこう 実行する人	ちousen 挑戦すること
市し 民みん	<p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などの防災訓練や防災に関する講座への参加を呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> 出前講座を積極的に活用し、防災を学ぶ場をつくります。</p> <p><input type="checkbox"/> 外国人市民の協力を得て、外国人市民が参加しやすい防災訓練を行います。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の防災訓練の時に「防災対策チラシ」を配ります。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などの防災訓練や防災に関する講座への参加を呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市が行う防災訓練を外国人市民も理解できるように通訳や企画・運営などをサポートします。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニティの集まりなどの時に「防災対策チラシ」を配ります。</p>
こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 ( K I A )	<p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などの防災訓練や防災に関する講座への参加を外国人市民に呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市が行う防災訓練を外国人市民も理解できるように、通訳や企画・運営などをサポートします。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害の時における外国人市民の支援体制について検討します。</p> <p><input type="checkbox"/> 主催事業参加者に「防災対策チラシ」を配ります。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などの防災訓練や防災に関する講座への参加を従業員に呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> 自治会と協力し、地域の防災訓練を行います。</p> <p><input type="checkbox"/> 従業員に「防災対策チラシ」を配ります。</p>
市し 防ぼう 災さい 課く	<p><input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などの防災訓練や防災に関する講座への参加を会員事業所に呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> 外国人市民を雇用する会員事業所に対し、従業員に「防災対策チラシ」を配るよう呼びかけます。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 外国人市民の現状にあった災害の時における支援体制をつくります。</p> <p><input type="checkbox"/> 避難場所をホームページでわかりやすく伝えるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/> 防災をテーマにした簡単な内容の講座メニューをつくります。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の防災訓練で、日本人市民と外国人市民が協力して取り組めるような訓練方法をつくります。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の防災訓練の時に、外国人市民リーダーを発掘します。</p> <p><input type="checkbox"/> 「防災対策チラシ」を外国人市民の意見も取り入れて多言語で作成します。</p> <p><input type="checkbox"/> 「防災対策チラシ」をホームページからダウンロードできるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/> 「防災対策チラシ」を市内各公共施設に配ります。</p>

こそだてしえんか  
子育て支援課  
がっこうきょういくか  
学校教育課

- 保育園、幼稚園や学校の避難経路図を多言語でつくり、園内などに掲示します。

せいかつごうりゅうか  
生活交流課

- 防災課と協力し、災害の時の避難場所のお知らせなどの防災情報を定期的に外国語版生活情報誌にのせます。
- 外国人集住都市会議などと連携し、災害の時における外国人市民の現状にあった支援体制をつくります。

市

ちょうない  
厅内における  
協力体制

- 「防災対策チラシ」を配ります！
- 市民課：転入手手続きの時に配ります。
- 各市民センター：受付（教室申し込み）などの時に配ります。
- 保健センター：乳幼児健診、がん検診などの時に配ります。
- 子育て支援課：保育園で配ります。
- 学校教育課：幼稚園・学校で配ります。
- 廃棄物対策課：ごみ分別・ごみ減量の出前講座の時に配ります。
- 建築課：県営住宅や市営住宅の申込書と一緒に配ります。
- 生涯学習課：担当の行事開催の時に配ります。
- 文化振興課：担当の行事開催の時に配ります。

じっせん  
とてもよい実践です！

国際交流協会（KIA）では、外国人市民を対象にした公共マナー教室を行っています。2010年度は消防署と協力して、5言語対応による教室を開きました。中国、ベトナム、ペルー、タイ、ブラジル出身の外国人市民が参加し、AED（自動体外式除細動器）の使い方や心臓マッサージの方法を学びました。

● 参加した外国人市民の声

「初めてAEDの使い方を知りました。いざという時には、この知識を役に立てたいと思います。」



# めざすこと② 自治会の活動への参加を増やします

(1) こまきの現状

市内には、地域に住む一人ひとりがお互いに協力し合い、住みよい地域社会をめざしてつくられた自治会があります。128団体あります。自治会では地域の盆踊りや桃花台まつりなど大小はありますが、行事やイベントなどを通じて、住民同士が交流を深めたり、地域を暮らしやすくする取り組みなど、さまざまな活動を行っています。

しかしながら、自治会加入率は約83%で、近年下がる傾向にあります。

(2) こまきの課題

こまき調査から、市内に10年以上暮らしている外国人市民も自治会を知らないこと、外国人市民の約70%の方が加入していないことがわかりました。その理由として最も多かった答えは「加入の必要性がわからない」でした。

一方で、外国人市民も日本人市民も、お互い住民同士のつながりの必要性を感じながら、そのきっかけが少ないことも、こまき調査からわかりました。つまり、日頃からの近所のつながりをつくる自治会の活動が、地域では求められているのです。

(3) めざすことを考えた理由

自治会という組織がない国で育った外国人市民にとって、その役割を理解するには、時間が必要です。みんなが、こまき市民の一員として地域の活動に積極的に参加することは、自治会の活動を知るよいきっかけとなります。自治会へ参加する市民が多くなることで、誰もが助けあって笑顔で暮らせるまちになると考えました。

かだい かいけつ  
課題の解決にむけて、挑戦すること

めざすこと②



じっこう ひと  
実行する人

ちゅうせん  
挑戦すること

市  
民  
自治会

- 国際交流協会（KIA）と協力し、地域の会館を会場に日本人市民と外国人市民が参加する料理教室を開催します。
- 自治会の行事やイベントを行う時に、企画段階から外国人市民に参加を呼びかけます。
- 自治会に加入していない方でも参加可能な行事やイベントを開催します。
- 自治会の行事のお知らせを多言語ややさしい日本語、イラストなどでつくります。
- 外国人市民と協力し、多くの外国人市民が自治会の行事やイベントに参加できる場をつくります。

外国人市民  
日本人市民

- 自治会の行事への参加を呼びかけます。
- 自治会の行事を行う時に、外国人市民にも理解できるよう翻訳、通訳や企画・運営をサポートします。
- コミュニティの集まりなどの時に「自治会のしおり」を配ります。

国際交流協会  
( K I A )

企 業

小牧商工会議所

保健センター

建 築 課

市

生活交流課

- 自治会の行事への参加を呼びかけます。
- 自治会の行事を行う時に、外国人市民も理解できるよう通訳や企画・運営などをサポートします。

- 自治会の行事への参加を従業員に呼びかけます。
- 従業員に「自治会のしおり」を配ります。

- 会員事業所に対し、自治会の行事に参加するよう呼びかけます。
- 会員事業所に対し、従業員に「自治会のしおり」を配るよう呼びかけます。

- 保健連絡員が企画する地区行事（地区健康展など）について、外国人市民が参加できる場づくりをサポートします。

- 多言語で作成した入居説明会の資料を活用し、入居説明会の時に自治会の役割と加入について説明します。

- 区長会と連携し、自治会をテーマにした簡単な内容の講座メニューをつくります。

- 自治会と協力し、地域の外国人市民リーダーを発掘します。

- 自治会の役割と加入について、外国人市民にもわかりやすく説明した「自治会のしおり」を多言語で作成します。

- 「自治会のしおり」を各公共施設に配ります。

- 「自治会のしおり」をホームページからダウンロードできるようにします。

市  
市内における  
協力体制

「自治会のしおり」を配ります！

- 市民課：転入手続きの時に配ります。
- 各市民センター：受付（教室申し込み）などの時に配ります。
- 保健センター：乳幼児健診、がん検診などの時に配ります。
- 子育て支援課：保育園で配ります。
- 学校教育課：幼稚園・学校で配ります。
- 廃棄物対策課：ごみ分別・ごみ減量の出前講座の時に配ります。
- 建築課：県営住宅や市営住宅の申込書と一緒に配ります。
- 生涯学習課：担当の行事開催の時に配ります。
- 文化振興課：担当の行事開催の時に配ります。

じっせん  
とてもよい実践です！

東田中県営住宅区では、お互いに協力しあって暮らしやすい地域をめざし、住民同士の交流を深めるために様々な活動を行っています。例えば、三世代交流として、餅つき大会を15年間行っています。また、外国人市民が多く住んでいるという地域性を活かし、秋祭りでは外国人市民がブラジル風のバーベキュー（シュハスコ）や揚げ餃子（パステウ）を出店し、食による地域交流も行っています。加えて、自治会の役員として外国人市民も参加し、活躍しています（2010年度の環境保全推進員はブラジル人住民です）。

● 東田中県営住宅区長の声

「可能性があることはやりましょう！」と皆さんに呼びかけ、取り組んでいます。同じ地域に暮らす住民のつながりを広げたいし、これからもずっとつなげていきたいです。」



しゃかいけんがく  
社会見学ツアー  
(航空宇宙科学博物館)

さんばないごつりゅうかい もち たいがい  
三世代交流会「餅つき大会」

めざすこと③

正しいごみの出し方を知り

ごみの減量をめざします

## (1) こまきの現状

市では、ポルトガル語・スペイン語・英語・中国語・タガログ語の5言語で「資源・ごみの分け方と出し方」のパンフレットをつくり、活用しています。そして、2007年度には、ごみの分別方法やリサイクルなどについて映像でわかりやすく説明したDVDやビデオを5言語でつくり、市役所や図書館などで貸し出しをしています。

また、はじめてこまき市民になった外国人市民には、5言語で市の指定ごみ袋の購入場所などを書いた封筒に、3種類の指定ごみ袋を入れて配っています。

こうした取り組みの成果により、外国人市民にとって、一番役立つ生活情報の第1位が「資源・ごみの分け方と出し方」であることが、こまき調査からわかりました。

## (2) こまきの課題

こまき調査では、多くの外国人市民が「ごみ出しルールを理解し、きちんと分けている」と答えています。

しかしながら、ごみの分け方やルールは、国によって違います。また、はじめてこまき市民になった外国人市民のなかには、日本国内でも地域によりごみの分け方のルールが違うことを知らず、他地域のルールでごみを分けている方もいます。こうした小さな誤解が、住民同士の大きな誤解となり、ご近所に暮らす住民同士の交流が進まない理由の一つになっています。

## (3) めざすことを考えた理由

市は2005年に「環境都市宣言」をし、リサイクルなどで資源を有効利用する社会（資源循環型社会）をつくることをめざしています。その中でごみ減量に取り組むことは、ごみ出しという誰もが行う日常の行動で、こまき市民が一つの目標を持って活動することでもあります。これにより、日本人市民と外国人市民が一緒に正しいごみの出し方を学びながら、住民同士の交流が生まれるきっかけをつくることができると考えました。

# かだい かいけつ 課題の解決にむけて、挑戦すること

めざすこと③



じっこう 実行する人	ちょうせん 挑戦すること
市民自治会	<p><input type="checkbox"/> ごみ集積場に、市がつくったごみ分別の説明板を掲示します。(多言語ややさしい日本語、イラストなどで説明したもの)</p>
外国人市民日本人市民	<p><input type="checkbox"/> 地域のごみ掃除、ごみ集積場清掃などへの参加を呼びかけます。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニティの集まりなどの時に、市がつくった「資源・ごみの分け方と出し方」を配ります。</p>
国際交流協会（KIA）	<p><input type="checkbox"/> 外国人市民を対象に「資源・ごみの分け方と出し方」についての講座を開催します。</p>
企業	<p><input type="checkbox"/> 外国人市民の働く職場のごみ箱などに、多言語でごみの分別方法などを掲示します。</p> <p><input type="checkbox"/> 従業員に「資源・ごみの分け方と出し方」を配ります。</p>
小牧商工会議所	<p><input type="checkbox"/> こまき産業フェスタなどでごみ箱を設置する時に、多言語でごみの分別方法などを掲示します。</p> <p><input type="checkbox"/> 外国人市民を雇用する会員事業所に対し、従業員に「資源・ごみの分け方と出し方」を配るよう呼びかけます。</p>
商工課	<p><input type="checkbox"/> 担当の行事・イベント会場でごみ箱を設置する時に、多言語でごみの分別方法などを掲示します。</p>
廃棄物対策課	<p><input type="checkbox"/> 市民課の待合ロビーにおいて、多言語のパンフレットやDVDなどを活用し、資源・ごみの分け方と出し方をお知らせします。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページに外国人市民が必要とする情報を掲載するとともに、アクセスが簡単になるように構成を工夫します。</p> <p><input type="checkbox"/> 外国語版生活情報誌に資源・ごみの出し方と分け方などをのせ、ルールを広くお知らせします。</p> <p><input type="checkbox"/> 外国人市民が参加するイベント開催の時に資源・ごみの出し方と分け方を広くお知らせします。</p> <p><input type="checkbox"/> ごみ集積場に掲示するため、ごみ分別の説明板をつくります。(多言語ややさしい日本語、イラストなどで説明したもの)</p> <p><input type="checkbox"/> 地域や市が主催する清掃活動に、外国人市民にも参加を呼びかけます。</p>
建築課	<p><input type="checkbox"/> 市営住宅の入居説明会の時に「資源・ごみの分け方と出し方」を配り、内容を説明します。</p> <p><input type="checkbox"/> 県営住宅や市営住宅の申込書と一緒に「資源・ごみの分け方と出し方」を配ります。</p>
生涯学習課	<p><input type="checkbox"/> 外国人市民が参加しやすい「ごみ減量」をテーマにした出前講座を開講します。</p>

せいかつこうりゅう カ  
生活交流課

- 担当の行事・イベント会場でごみ箱を設置する時に、多言語でごみの分別方法などを掲示します。
- 外国語版生活情報誌にリサイクルやごみ減量などに関する情報をのせます。

市レ

ちようない  
厅内における  
協力体制

「資源・ごみの分け方と出し方」を配ります！

- 保健センター：乳幼児健診、がん検診などの時に配ります。
- 各市民センター：受付（教室申し込み）などの時に配ります。
- 文化振興課：担当の行事開催の時に配ります。
- 生涯学習課：担当の行事開催の時に配ります。
- 防災課：地区防災訓練の時に配ります。

## じっせん とてもよい実践です！

古賀県営住宅のある地域では、ごみ集積場の掲示が市民の発案で工夫されています。

●外国人市民の声

「とても複雑なごみの収集日がとてもわかりやすくなってトラブルも減り、いつもきれいになりました。こうした取り組みがもっと広がるとよいですね。」

「資源・ごみの分け方と出し方」を担当する廃棄物対策課は、情報の多言語化だけでなく、色やイラストを使って誰もが理解できるように工夫しています。また、多くの外国人市民が働く企業へ行き、ごみの分別に関する出前講座も行っています。

エコリン（小牧市環境キャラクター）からの声  
「ごみ出しマナーを守り、みんなで住み良いまちをつくりましょう！」



エコリン



いつもきれいにごみの分別がされています。



その理由は、指定日になると“パカッ”と表記が出てくるからです。

めざすこと④

子どもたちの  
「多文化共生」  
を応援します

(1) こまきの現状

保健センターでは全国に先駆けて、外国にルーツを持つ赤ちゃんとそのお母さんや家族を応援するために、1998年度からポルトガル語・スペイン語の通訳が働いています。

また、外国にルーツを持つ子どもが多い市内の公立保育園や小・中学校、児童クラブでは、日本語がわからぬい子どもをサポートしています。2010年度には、日本語のできない子どものために、日本語を集中的に学ぶ教室（プレクラス）「にじっこ教室」が、大城小学校内にできました。

こうした外国にルーツを持つ子どものために市内の小・中学校で担当する先生たちは、外国人児童生徒連絡協議会をつくりました。1997年度からこの協議会では、学校での指導方法の研究をしたり、多言語で進路説明会を行ったりしています。

(2) こまきの課題

市内に暮らす外国籍の市民のうち、約4人に1人は、0歳から19歳までの子どもです。また、市内で生まれる外国籍の子どもも、他の地域と比べて多く、そのため、子どもだけではなく、文化や言葉のちがいで不安を抱えながら子育てをしているお母さんや、家族に対してのサポートも課題です。

また、外国にルーツを持つ子どものなかには、外国人学校などに通う子どもや、義務教育の対象でないことで学校に行っていない子どももいるため、さまざまな教育のサポートが必要です。

(3) めざすことを考えた理由

外国にルーツを持つ子どもが、自分のルーツに自信を持ち、堂々と自分の名前（本名）を使って、笑顔で暮らすることは、とても大切です。「多文化共生のまちづくり」を進めるなか、子どもの頃から多文化共生を学ぶことが重要であると考えました。

# かだい かいけつ 課題の解決にむけて、挑戦すること



じっこう ひと  
実行する人

ちょうせん  
挑戦すること

市  
民  
自治会

外国人市民  
日本人市民

国際交流協会  
(KIA)

企  
業

小牧商工会議所

小牧警察署

市  
民  
課

子育て支援課

子育て支援課  
学校教育課

市  
民  
課

学校教育課

子どもが母国や外国の文化・習慣を学ぶことのできる行事を企画し、参加を呼びかけます。

自治会のまつりやイベントで、外国人市民の子どもが参加できる場をつくります。

外国人市民の保護者も理解できる、子育てが学べる事業を行います。

外国人市民の親子が参加する行事の時に「就学ガイド」を配ります。  
 地域や関係機関、市が行う子どもが母国や外国の文化・習慣を学び「多文化共生」を知ることのできる行事の翻訳や企画・運営をサポートし、子どもの参加を呼びかけます。

外国人市民の子どもの小学校入学準備スクールを充実していきます。

子どもが母国や外国の文化・習慣を学ぶことのできる場づくりをします。

外国人市民の保護者も理解できる、子育てが学べる事業を行います。

子どもが参加できる自治会の行事への参加を従業員に呼びかけます。

外国人市民の子どもを持つ従業員に「就学ガイド」を配ります。

会員事業所に対し、子どもが参加できる自治会の行事などに参加するよう呼びかけます。

会員事業所に対し、従業員に「就学ガイド」を配るよう呼びかけます。

市内にある学校など、子どもが集まる場で、外国人市民の子どもが理解できる交通安全や非行防止の講話を行います。

転入手手続きの時に「就学ガイド」を配ります。

児童館で子どもが、母国や外国の文化・習慣を学び「多文化共生」を知ることのできる活動を増やします。

子どもの運動会に、日本人市民と外国人市民の保護者が参加できるプログラムをつくり、交流できる場づくりを考えます。

外国人児童生徒連絡協議会と協力し、外国人市民の子どもの教育の環境をよりよくします。

子どもが母国や外国の文化・習慣を学ぶことのできる場をつくります。

にじっ子教室（日本語初期指導教室）を充実させます。

日本の学校制度などがわかる「就学ガイド」をホームページからダウンロードできるようにします。

「就学ガイド」を各公共施設に配ります。

国際交流協会（KIA）が行うプレスクールの充実に協力します。

外国人市民の子どもの就学実態の把握をし、不就学者を減らします。

保健センター	<input type="checkbox"/> 乳幼児相談で必要な時には、母国の育児方法、離乳食、食生活習慣などを尊重しながら対応します。 <input type="checkbox"/> 乳幼児健診、がん検診などの時に「就学ガイド」を配ります。
建 築 課	<input type="checkbox"/> 市営住宅や市営住宅の申請書と一緒に「就学ガイド」を配ります。 <input type="checkbox"/> 市営住宅の入居説明会の時に「就学ガイド」を配り、内容を説明します。
図 書 館 まなび創造館	<input type="checkbox"/> 外国人市民の親や子どもに読み聞かせができるような絵本を収集し、母語や母文化などに子どもが親しめるようにします。 <input type="checkbox"/> 外国人市民の子どもも参加できる“おはなし会”を開催し、外国人市民の親子の参加を増やします。
生活交流課	<input type="checkbox"/> 子どもを対象にした多文化共生に関するセミナーを開催します。

## じっせん とてもよい実践です!

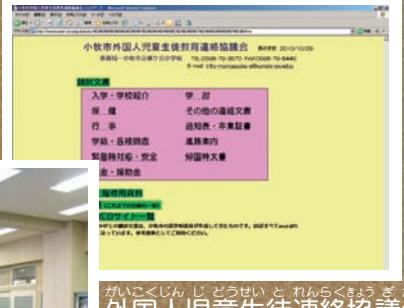
国際交流協会（KIA）では、日本語指導が必要な就学前の子ども（新1年生）を対象にしたプレスクールを2010年度より開講しています（市内2保育園で試行）。この事業の運営は、国際交流協会（KIA）と教育委員会が行い、資金は市内にある企業が協力しています。

教育委員会は、外国にルーツを持つ子どもの学習をさまざまな形でサポートし、応援しています。学校間の連絡、教材開発、翻訳作業の集約を行い、外国人児童生徒教育の向上に取り組む外国人児童生徒連絡協議会は、全国でも先進的な実践を行う組織です。

●外国人児童生徒連絡協議会の声  
「外国人児童生徒連絡協議会では、研修部会、進路部会、文書管理部会、生活部会の4つの部会にわかれ、外国人児童生徒教育の推進のために活動をしています。外国人児童生徒の一人ひとりを大切にしたサポートをこれからも行っていきたいです。」

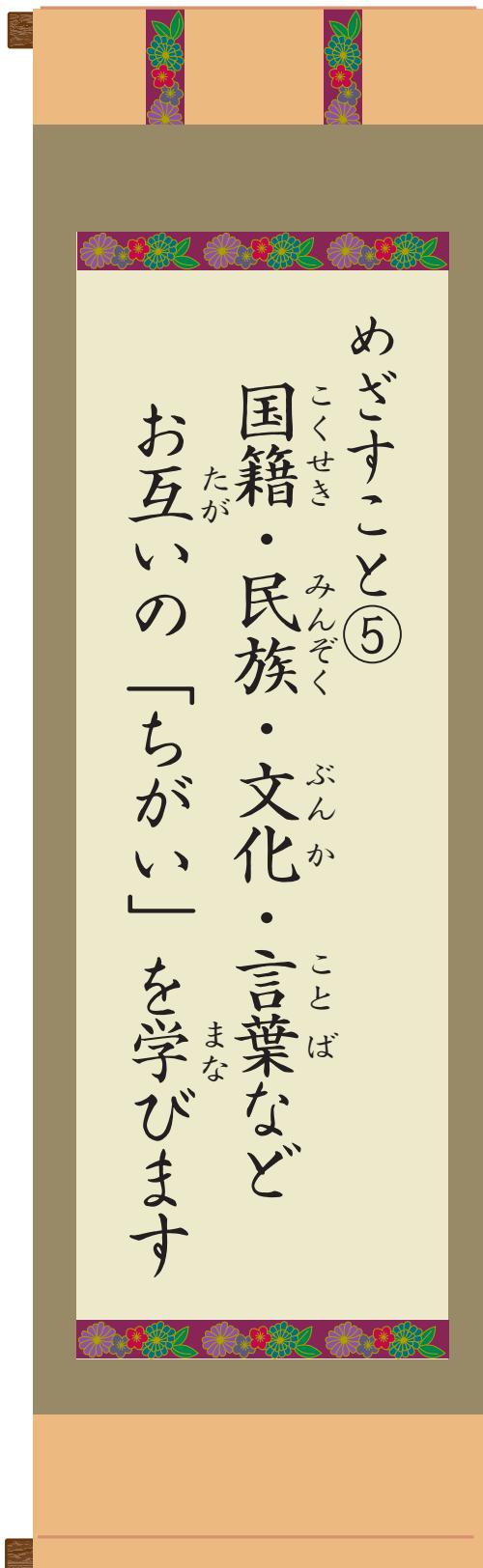


にじっこ教室  
（大城小学校内）



外国人児童生徒連絡協議会  
作成のホームページ

活発な議論がされている外国人児童生徒連絡協議会



## (1) こまきの現状

市民の 20 人に 1 人が外国籍の市民です。その国籍も多様で、合計 47 カ国になります。この 20 年間で約 10 倍になりました。

いろいろな国の人気がこまき市民として市内で暮らしているなかで、国際交流協会 (KIA) では、国際交流ふれあいフェスタなど、多文化共生をテーマにした交流を行っています。さまざまな国の言葉、料理などの文化や習慣などを学ぶことができる講座もあります。

## (2) こまきの課題

こまき調査により、日本で生活するなかで差別された経験があると答えた外国人市民は約 60% でした。しかしながら、多くの外国人市民が「日本人と交流し、仲良く暮らしていきたい」と答えています。また、日本人市民については「外国人と交流できるイベントに、積極的に参加することはわからない」と答えながらも「外国人と交流し、仲良く暮らしていきたい」と思っている方が多いことがわかりました。

つまり、多くのこまき市民は、同じ願いを持ち、同じ地域で暮らしているのです。

## (3) めざすことを考えた理由

日本人市民も外国人市民も「交流し、仲良く暮らしたい」と願いながらも、実現できないのは「知らない」とが原因だと考えました。まずは、お互いを知ることと、そのきっかけをたくさんつくることが必要です。

こまき市民がお互いを知ることで、国籍・民族・文化・言葉の「ちがい」も知ることができると考えました。

# かだい かいけつ 課題の解決にむけて、挑戦すること

めざすこと⑤



じっこう  
実行する人

ちようせん  
挑戦すること

<b>市 民</b> 市民 がいこくじん し みん 日本人市民 にほんじん し みん	<b>自 治 会</b> 自治会 じ ち かい	<input type="checkbox"/> 日本人市民が外国の文化・習慣を学び、多文化共生の大切さを知ることのできる行事を行います。 <input type="checkbox"/> 「プランダイジェスト版」を配ります。
<b>国際交流協会 (KIA)</b>		<input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市が外国の文化・習慣を学び、多文化共生の大切さを知ることのできる行事を行う時に、外国人市民にも理解できるよう翻訳、通訳や企画・運営をサポートします。 <input type="checkbox"/> 「プランダイジェスト版」を配ります。
<b>企 業</b>		<input type="checkbox"/> 市民まつりで、外国人市民の出身国食を紹介し、食を通して学びます。 <input type="checkbox"/> 外国や母国、日本の文化・習慣を学び、多文化共生の大切さを知ることのできる行事を増やします。 <input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市が外国の文化・習慣を学び、多文化共生の大切さを知ることのできる行事を行う時に、外国人市民にも理解できるよう通訳や企画・運営などをサポートします。
<b>小牧商工会議所</b>		<input type="checkbox"/> 社内報に外国人社員の出身国紹介コーナーをつくるなど、社員同士の理解促進を図ります。
<b>小牧警察署</b>		<input type="checkbox"/> 地域や関係機関、市などが主催する「外国人の文化習慣を学ぶことができる場づくり」をサポートします。 <input type="checkbox"/> 会員事業所に対し、従業員に「プランダイジェスト版」を配るよう呼びかけます。
<b>企画課</b>		<input type="checkbox"/> 第6次小牧市総合計画を外国語版生活情報誌にのせるなど、市の取り組みを紹介します。 <input type="checkbox"/> 「市民の声」(市に対する意見・要望など)をやさしい日本語などで対応します。
<b>人事課</b>		<input type="checkbox"/> 市内の職員研修のプログラムのなかに「多文化共生研修」を取り入れて、職員の意識を高めます。
<b>総務課</b>		<input type="checkbox"/> 外国人市民にもわかりやすい庁舎の案内板を設置します。
<b>財政課 市民税課 保険年金課</b>		<input type="checkbox"/> 税の使い道や仕組み、医療制度と年金制度、小牧市国民健康保険や子ども医療をやさしく説明した資料をつくり、外国語版生活情報誌にのせます。

こそだてしえんか  
子育て支援課  
がつこうきょういくか  
学校教育課

多文化共生の大切さを伝える市民団体や市民ボランティアと協力し、小中学校・幼稚園・保育園の職員などを対象にした「多文化共生」を学ぶことができる場をつくります。

ほけん  
保健センター

健康まつりにおいて、母国(ほくこく)の習慣(じゅうかん)を尊重(そんちょう)しながら、日本における健康的(けんごうてき)な生活習慣(せいかつじゆう)や食習慣(しょくじゆう)を紹介(けいがい)する場をつくります。

こうつうぼうはんか  
交通防犯課

国ごとで異なる交通安全制度(こうつうあんぜんせいど)を考慮(こうりょ)して、わかりやすい出前講座(でまえこうざ)を行(おこな)います。

いじか  
医事課

市民病院(しみんびょういん)に多言語(たげんご) (多文化共生)の情報コーナーをつくります。

市せいかつこうりゅうか  
生活交流課

多文化共生の内容(ないうよう)を特集(とくしゅう)し、外国語版(がいこくご)生活情報誌(せいかつじょうほうし)にのせます。  
 外国語版(がいこくご)生活情報誌(せいかつじょうほうし)に、プラン実行(じっこう)に関する取り組み(とりくみ)を紹介(けいがい)します。  
 外国人市民(がいこくじん)の声(こゑ)が市政(ぼうじ)に取り入れができるような仕組み(しき組み)を検討(けんとう)します。

庁内(ちやうない)の各課(かく)において多言語(たげんご)で作成(さくせい)した翻訳(ほんやく)資料(しりょう)を整理(せいろう)し、庁内(ちやうない)で翻訳(ほんやく)資料(しりょう)が共有(ほうゆう)できるような仕組み(しき組み)をつくります。あわせて、やさしい日本語(ほんご)や多言語(たげんご)での資料(しりょう)づくりをサポート(サポート)します。

プラン実行(じっこう)に関するパンフレット(かんふれつ)などを積極的(せつきよくてき)にホームページ(ホームページ)にのせて、多文化共生(だいわくせう)に関する情報を充実(じゅうじき)させます。

多文化共生(だいわくせう)に関するセミナー(せみなー)を開催(かいさい)します。

外国人市民(がいこくじん)の審議会(しんぎくわい)や協議会(きょうぎくわい)への参加(かさん)を呼びかけます。

プランやプランダイジェスト版(はんひろかつよう)を広く活用(かつよう)できるよう、ホームページ(ホームページ)からダウンロード(ダウンロード)できるようにします。

「プランダイジェスト版(はんひろかつよう)」を各公共施設(かくこうしき)に配(ぱい)ります。

ちょうない  
きょうりょくたいせいい  
協力体制

「プランダイジェスト版(はんひろかつよう)」を配(ぱい)ります！

総務課(そうむくわく)：本庁舎(ほんぢゆうしゃ)・南庁舎(なんぢゆうしゃ)の受付(うけつけ)で配(ぱい)ります。

市民課(しみんくわく)：転入手続き(てんしゆりす)の時に配(ぱい)ります。

各市民センター(かくしみんセンター)：受付(うけつけ)（教室(じょうしつ)申し込み(めいりん)）などの時に配(ぱい)ります。

保健センター(ほけんセンター)：乳幼児健診(じゅうぐじけんしん)、がん検診(がんけんしん)などの時に配(ぱい)ります。

廃棄物対策課(はいきものたいさくくわく)：ごみ分別(べつべつ)・ごみ減量(げんりょう)の出前講座(でまえこうざ)の時に配(ぱい)ります。

建築課(けんちくくわく)：県営住宅(けんえいじゅうたく)や市営住宅(しえいじゅうたく)の申込書(しんるいしょ)と一緒に(いっしょ)配(ぱい)ります。

生涯学習課(じょうががくしゅくくわく)：担当(たんとう)の行事(ぎょうじ)開催(かいさい)の時に配(ぱい)ります。

文化振興課(ぶんかしんこうくわく)：担当(たんとう)の行事(ぎょうじ)開催(かいさい)の時に配(ぱい)ります。

防災課(ぼうさいくわく)：地区防災訓練(ちくしほうさいくんれん)の時に配(ぱい)ります。

## とてもよい実践です!

市内では、多文化共生をめざした活動をする市民団体があります。例えば、ブラジル人の保護者が集まって子どもにポルトガル語を教えることからはじまった「ラテン子どもの会」があります。この会では、外国人市民の子どもや保護者を対象に夢と希望を持った将来や進路を考える場をつくったり、日本人市民を対象にブラジルの民話を人形劇で紹介したりしています。

### ●ラテン子どもの会代表者の声

「ラテンにルーツを持つ市民でつくった団体です。コミュニティ通訳のネットワークづくりなど、地域社会に役立つ活動をこれからも行っていきたいです。」



2004年度に始まった子どものためのポルトガル語教室



人形劇でブラジルの民話を紹介



コミュニティ通訳の勉強会

